

編集後記

臨床心理学部研究報告編集委員長 濱野 清志

『臨床心理学部研究報告』第11集は論文2篇のみを収める小ぶりの研究報告となった。1篇は柴田長生教授と学外の大森弘子氏の共著になる「幼児期後期における『言葉領域』の発達と、子どもの成長全般への関連について-よりよい幼児教育実践のための視座を得るために-」、もう1篇は住岡恭子講師による「大学初年次生の『学生化』プロセス」である。小ぶりとはいえ、それぞれの専門領域を現場実践、臨床実践とのつながりの中で深めようとした意欲的な論文である。

臨床心理学部における教育福祉心理学科と臨床心理学科という2学科構成の体制が時代の流れの中で新たな学部を構成して発展的に改変しようとする動きの加速するなか、本学のように小ぶりの大学にあってはじっくりと研究に取り組むことがなかなか定まらない状況も生まれつつある。大学人として我が国の学問の研究発展に資する立ち位置を今一度確認することが求められている。心して取り組んでいきたいところである。

執筆者紹介 (掲載順)

柴田長生 京都文教大学・臨床心理学部・教育福祉心理学科・教授
大森弘子 京都文教大学・臨床心理学部・非常勤講師
住岡恭子 京都文教大学・臨床心理学部・臨床心理学科・講師

2018年度 編集委員会

*濱野 清志・住岡 恭子 *編集委員長

京都文教大学 臨床心理学部研究報告 第11集

平成31年3月1日 発行

発行 京都文教大学

〒611-0041 京都府宇治市槇島町千足80

電話 (0774)25-2400

印刷 株式会社 田中プリント

〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入石不動之町 677-2

電話 (075)-343-0006